様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：３４５１１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2010～2013
課題番号：２２５２００５７

研究課題名（和文）ジュニャーナシュリーミトラ「主宰神論」の研究

研究課題名（英文）A study of Jnaanasriimitra's IIsvaravaada

研究代表者
狩野　恭（KANO, Kyo）

神戸女子大学・文学部・教授

研究者番号：７０２０４５９２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,100,000円、（間接経費）　930,000円

研究成果の概要（和文）：研究課題の具体的内容についての成果の概要は以下のようなものであった。(1)＜ジュニャーナシュリーミトラの著作の主宰神の存在に関する議論の章の校訂テキストの作成のための同著作および、関連文献の写本の調査＞については、予定どおり、ゲッティンゲン大学で調査を行いスキャナによって予定以上の文献について写本をデータ化することができた。(2)＜英訳と訳注＞については、英訳はほぼ完成することができた。また訳注については、一部未完成の部分が残ったがおおむね完成した。(3)＜英文による論考の発表＞については、いくつかの論文は発表できたが、思想史全体像としての論考は未完成となった。

研究成果の概要（英文）：The results of my research plan are as follows:(1)<Research of the manuscripts of Jnaanasrimitra's works and other related texts for the critical edition of Jnaanasrimitra's text concerning the debates of the existence of God> As planned,I visited the library of Goettingen University and made PDF text of the photocopies of manuscripts kept there by scanning them, covering more than I had expected to do.(2)<English translation and notes>I have almost finished the English translation of the text, and have also finished notes on the translation except for that of some problematic passages.(3)<Publication of the study of the research in English> I have written several papers on the topic of the research in English. A paper which surveys all of the research is, however, not yet completed.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：中国哲学・インド哲学・仏教学

キーワード：主宰神　ジュニャーナシュリーミトラ

１．研究開始当初の背景

【インドにおける＜神の存在論証＞の思想史的意義】インドにおける主宰神論（有神論）論争は、世界観、倫理観の基本となる絶対的存在としての恒常、永遠な主宰神の存在を主張し、その存在を論理的に論証することをとおしてヒンドゥー教特にシヴァ派の理論的基盤を作った（A）ニヤーヤ学派，ヴァイシェーシカ学派と、そのような絶対的存在を否定しようとした(B)仏教側との論争である。この論争は、西洋において、古くから連綿と続けられた、いわゆる「神の存在論証」のインド版と呼ぶにふさわしく、その解明はインド思想史上のみならず、西欧をも含む有神論思想史全体としても極めて重要である。

【インド論理学・認識論と＜神の存在論証＞】

インドにおける論理学・認識論研究は、仏教思想、ヒンドゥー教の思想を解明する上でも、極め重要である。それは、仏教にとっての基本的世界観である「刹那滅論」やヒンドゥー教の世界観としての「有神論」など、それぞれの基本教義に直接かかわっているからである。また、仏教の思想は、「縁起」や「刹那滅論」など認識論や論理学にかかわる要素を強くもっている。したがって、それらの解明は、直接に、それらの基本的教義の解明につながる。「主宰神の存在論証」をめぐる論争は根本的教義をめぐる論争であり、論理学・認識論上の根本にかかわる議論である。

【インドにおける＜神の存在論証＞の歴史とジュニャーナシュリーミトラ】

インドにおける＜神の存在論証＞をと

それを否定する仏教側との論争は、歴史的に２度頂点を迎える。１度目はニヤーヤ学派のウッデヨータカラと、インド仏教論理学・認識論に関して最大の思想家であるダルマキールティの時代（7C ごろ）、２度目は、本研究の対象であり、いまだほとんど解明されていない、後期仏教の最大の思想家のひとりジュニャーナシュリーミトラ（11C）とニヤーヤ学派のウダヤナの時代である。ジュニャーナシュリーミトラの著作は双方の議論についての貴重な資料である。

【欧米、特にウイーンにおける近年の研究】

この論争に関する本格的研究は、1960 年代に、ウイーンにおいて主に始まった。チェンパラティ（George Chemparathy）は、1963 年にウイーン大学に学位論文を提出して、主として（A）についての研究をまとめた。しかしながら、この研究では、ジュニャーナシュリーミトラについては触れられていない。また、同じウイーンで学んだシュタインケルナーは、学位論文を同じ 1963 年に提出し、主宰神論の論理学的部分に言及した。他方また、同じくオーバーハンマーもその宗教的関心心から主宰神に関する論理学的問題、宗教的問題を取り扱った論文を発表した。1972 年チェンパラティは(A)の代表作である『ニヤーヤ・クスマーンジャリ』研究の一定の成果をまとめ出版した。さらに、近年、クラッサー(Helmut Krasser)は、仏教側からの主宰神批判を主に、これまでの成果を文献学的に整理し提示する形で *Śaṅkaranandanas Īśvarūpākaraṇasaṅkṣepa* として 2002 年出版した。しかしながらこの研究は、これまでの主に西欧における主宰神論及び仏教認識論・論理学研究の成果の上に成立っているものであり、現在の西欧における主宰神論研究の到達点を示すものである。しかしながら、研究は、仏教側からの解明という色彩が強い点、さらには我が国における主宰神論研究に対する認識の不十分さ、また、ポイントなる主宰神論証批判に関する視点等、いくつかの重要な問題点を有しており、チェンパラティと同様、ジュニャーナシュリーミトラについてはほとんど研究されていない。

【国内における研究】一方、国内においては、宮本啓一氏や石飛道子氏などが、主として論争の前半期（7C）のウッデヨータカラについて個別的研究を発表しており、また、稲見正浩氏はダルマキールティ研究の一部として、その主宰神論証批判部分の試訳を試みている。また、近年、若手の研究者によって、いくつかの論文が発表されている。しかしながら、特に本申請によってめざす(A)ニヤーヤ学派，ヴァイシェーシカ学派側、(B) 仏教側、双方の側からの総合的研究はまだなかった。

２．研究の目的

本研究は、インドにおける、仏教徒と非仏教徒（特にヒンドゥー教の哲学的基礎を担った人々）との間に行われた「主宰神」の存在をめぐる論争、特にインドにおいて発展した論理学を手段として展開された議論の展開を歴史的に明らかにすることである。特に、本研究では、インドにおける後期仏教の最大の思想家のひとりであり、膨大な著作を残したジュニャーナシュリーミトラ（11C）の著作の中の「主宰神論」の解明（校訂テキストの作成と英訳、訳注の作成）をとおして、インドにおける主宰神論争史の後期（９－１１Ｃ）の思想史上の特質を明らかにすることである。

【具体的課題】

(1) ジュニャーナシュリーミトラの著作の校訂テキストの完成、そのための写本の調査

すでに、一定程度完成しているが、難解な箇所について、写本を調査することによって、完成度の高いものとする。

(2) 英訳と訳注の完成

博士論文では和訳を提示しているが、個々のテクニカルタームのリストと英語による訳語を再検討することによって現在準備中の英訳を完成させ、さらには、英語による訳注を完成させる。

(3) 英文による論考の完成

思想史上の意味についての論考を完成すると同時に論理学的問題を解明する。具体的には、インドにおける「帰謬論証」を中心とした間接論証についての議論を文献にそって詳細にたどり、ジュニャーナシュリーミトラ自身の他の著作や同時代の資料を集めて思想史上の発展を解明する。

３．研究の方法

(1)ジュニャーナシュリーミトラの写本の調査

まず、ゲッテインゲン大学において写本を調査する。写本（またはそのコピー）を画像として撮影し、分析しやすい E-ファイルとして加工し、調査を行った。

(2) ジュニャーナシュリーミトラ『主宰神論』の校訂テキストの完成

写本の調査によって明らかになったテキストの読みに基づいてついて、校定テキスト（現在８５ページよりなる）の問題点を修正した。さらに、直接引用など関連テキストを整理し、関連文献を含めた詳細な Index を作成した。

(3) 英訳の準備作業としてのテクニカルタームの整理と訳語の確定

インド哲学文献、論理学認識論特有の述語について、これまでの諸学者の訳語はすでに、かなりリストアップ整理されているので、それらを拡大、整理しつつ、それらに基づいて、新たな訳語の検討を行なう。

(4) 英訳と英文訳注の完成

まず、英文試訳、英訳注を作成し、英文のチェックにあたっては、近年ジュニャーナシュリーミトラの他の著作の一部を研究対象としたハーバード大学のパリマル G・パテイル准教授（Parimal G.Patil）の協力の下で訳文を点検することとした。

４．研究成果

(1) ゲッテインゲン大学における茶本調査は予想以上に多くの写本資料をＰＤＦデータ化することに成功した。特に、ジュニャーナシュリーミトラの対象となる著作以外の他の著作の写本コピーや、関連する重要文献である、プラジュニャーカラグプタやダルマキールティの著作の写本などをデータ化できたことは、今後の研究にとって極めて重要な意味がある。

(2) ジュニャーナシュリーミトラ『主宰神論』の校訂テキストについては、写本を参照することによりほぼ完成することができた。また、校訂テキスト完成の過程で、ジュニャーナシュリーミトラ「主宰神論」の一部が、ジャイナ教の文献に引用として明示されずに、多量に引用されていることが判明し、この点については、引用されているジャイナ教文献と当該文献との比較検討を行い、その結果は、研究成果として平成２３年度に発表し

た。
(3)テクニカルタームの整理と訳語の確定
については、テキスト Index 作成時に同時作業として行ったが、まだ完成にはいたっていない。
(4)英訳と英文訳注の完成
英訳は全体としてほぼ完成したが、チェック作業が一部残った。また訳注についても、一部不十分なところが残ったが、ほぼ完成することができた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

① *Dravya* 研究―実体・属性・実在・機能―、pp.83–103. 『インド論理学研究』Ⅲ, インド論理学研究会, 狩野恭、査読あり、2011.11
② *Sātmaka, Nairātmya*, and *A-nairātmya*: Dharmakīti's Counter-Argument Against the Proof of *Ātman,*pp. 391–410. *Jounal of Indian Philosophy* Vol. 39, Kano Kyo, 査読あり, 2011.6
③ ダルマキールティにおける否定の論理 ― *ātman* 批判と *nairātmya* ―、pp.101–124 『インド論理学研究』Ⅰ、松本史朗教授還暦記念号インド論理学研究会. 狩野恭、査読あり、2010.9

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 4 件）

① Syādvādaratnākara と Jñānaśrīmitra ―引用の一形態―, pp.289-410, 『奥田聖應先生頌寿記念インド学仏教学論集』, 奥田聖應先生頌寿記念論集刊行会、佼成出版社, 狩野恭、査読あり、2014
② Blue Smoke:Perceptual Judgment in the Determination of Causal Nexus、pp.330–348、*Saṃskr̥ta-sādhutā, Goodness of Sanskrit,* ― *Studies in Honor of Professor Ashok Aklujkar* ―, D.K.PrintWorld Publishers of Indian Traditions (NewDelhi, India), Kano Kyo, 査読あり, 2012
③ Dichotomy, *antarvyāpti*, and *dr̥ṣṭānta* pp.231–254, *Religion and Logic in Buddhist Philosophical Analysis, Proceedings of the Fourth International Dharmakīrti Conference,* Vienna, Österreichische Akademie der Wissenschaften, Kano Kyo, 査読あり, 2011
④ On the *Liṅga*s of *Ātman*、pp.2–28, *From Vasbandhu to Caitanya, Studies in Indian Philosophy and Its Textual History,* Motilal Banarssidas (India), Kano Kyo, 査読あり、2010

６．研究組織

(1)研究代表者

狩野　恭（KANO, Kyo）
神戸女子大学・文学部・教授
研究者番号：７０２０４５９２